<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>演劇教育入門</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">平田　知之
石井　路子
鎌田　麻衣子</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>2 年 第 3 クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">演劇教育には、演劇そのものの教育（芸術の教養として、専門家養成として）と、演劇を活用した教育がある。本授業では、主に後者について、演劇が教育とどのように結びついているのか、実践例を中心に体験的に理解する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">・現代の種々の教育現場で、演劇がどのように取り入れられているのかを、体験的に理解する。　・演劇的なものの見方、考え方が、教育にどのように有効なのかを、言語や身体を用いて、実践的に説明できるようになる。　・学校だけでなく、医療、福祉の現場など、さまざまな場所で演劇を活用できる応用力を身につける</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">第 1 回 アイスブレイク研究／演劇教育と学習観
第 2 回 アイスブレイク探究／演劇的手法による学び
第 3 回 アイスブレイク探究／オンラインシアターゲーム
第 4 回 アイスブレイク探究／ファシリテーター論
第 5 回 演劇教育の方法（1）演劇ワークショップのプログラム構成
第 6 回 演劇教育の方法（2）ファシリテーションの技術と考え方
第 7 回 演劇教育の方法(3) グループファシリテーションとサブ講師の役割
第 8 回 演劇教育の方法(4) 評価とリフレクション
第 9 回 インプロ（即興演劇）教育の実践
第 10 回 応用インプロ（即興演劇）の実践
第 11 回 医療職・福祉職養成教育における演劇教育の実際
第 12 回 ふりかえりとまとめ/演劇教育、応用演劇のこれから</td></tr>
<tr><td>事前･事後学習</td><td colspan="3">講義で毎回配布されるテキストを事前に読んでくる 講義の指示に従い、小レポートを作成する</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="3">各回の授業において資料を配付する</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="3">『高校生が生きやすくなるための演劇教育』（いしい, 2017, 立東舎）
『ワークショップ －新しい学びと創造の場－』（中野民夫，2001，岩波書店）　『ワークショップデザイン論』（山内祐平ほか, 2013/2021，慶応義塾大学出版）</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準</td><td colspan="3">平常点（ディスカッションやプレゼンテーションへの参加）60%　レポート 40%</td></tr>
<tr><td>履修上の注意
履修要件</td><td colspan="3">特になし（備考欄を参照のこと）</td></tr>
<tr><td>実践的教育</td><td colspan="3">芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</td></tr>
</table>

備考欄	理論科目・演劇教育入門→実践科目・演劇ワークショップ実習Ｄ→理論科目・演劇教育論と系統的に科目を配置し、理論と実践の往還を目指しているので、履修計画の参考にしてほしい。